

Ⅱ. シンポジウム関連イベント

開館20周年記念シンポジウム「復元ー恐竜のすがたにせまるー」の関連イベントとして、「復元」をテーマに、恐竜造形、自然史講座「ユアンモウサウルスを復元しよう」、ブラキオサウルスの色募集と野外恐竜ランドの恐竜模型修繕を行いました。

(1) 恐竜造形

豊橋市内の小学校の先生方からなる図工・美術研究部の協力により、自然史博物館と連携して市内の小学校3校の児童たちが制作した恐竜の造形作品を展示しました。自然史博物館が提供した復元図などの資料を基に竹で作られた大迫力の恐竜や流木、木片製のカラフルな恐竜、児童一人ひとりが制作した木っ端や素焼き製のかわいらしい恐竜たちは、来館者の注目の的となり、大好評でした。

展示期間：
平成20年7月13日(日)～
10月16日(木) (7月8日搬入)

展示場所：
自然史博物館前の広場
および中庭

協力校：
豊橋市立大清水小学校、
杉山小学校、二川南小学校

杉山小学校のステゴサウルス(左)、
アロサウルス(中央)、大清水小
学校の流木恐竜(右)



自然史博物館の中庭に展示された
大清水小学校の恐竜素焼き

各学校の作品一覧

学校	学年	作品
①大清水小学校	4年	恐竜素焼き 81体
	6年	流木恐竜 6体
②杉山小学校	1・2年	大好き ぼくだけの恐竜（素焼き）162体
	3・4年	出現！木っ端恐竜（木っ端）136体
	5・6年	ユアンモウサウルス、ステゴサウルス、アロサウルス、ギガンティックスリーアイ（竹）4体
③二川南小学校	特別支援学級	木片恐竜 2体

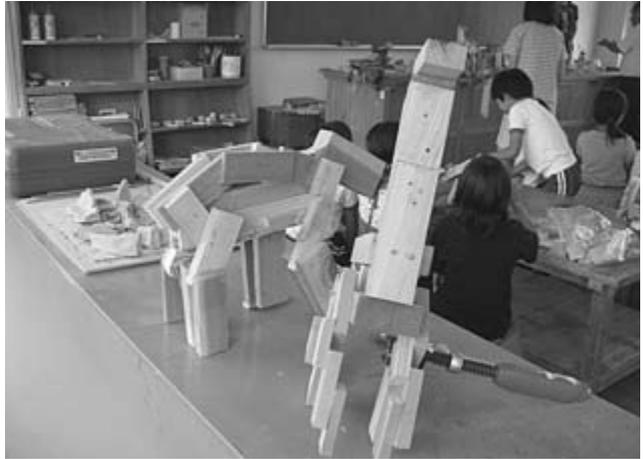
作品制作・展示風景

①大清水小学校



②杉山小学校





③二川南小学校



(2) 自然史講座「ユアンモウサウルスを復元しよう」

シンポジウムのテーマにあわせ、実際に恐竜の復元模型を作る行事を開催しました。講師に恐竜造形作家の荒木一成さんをお招きし、リニューアルしたばかりの中生代展示室の目玉の一つ「ユアンモウサウルス」を約30cmの粘土模型で復元しました。骨格図を元に、あらかじめ用意した芯材に骨や筋肉、皮膚をイメージしながら、少しずつ粘土を貼り付け、仕上げに水彩絵の具で着色（口絵5）という工程で制作を行いました。

参加した子どもたちは、講師の荒木さんが驚くほどの集中力で、熱心に制作に取り組み作品を完成させました。同じように説明を受け、同じ芯材を使っているにもかかわらず、それぞれ全く違う復元模型が出来上がり、子どもたちの創造性に驚かされました。これらの作品は、シンポジウム当日まで自然史博物館で展示しました（口絵6）。

恐竜模型の芯材の制作にあたっては、自然史博物館教育普及ボランティアの皆さんと豊橋市立東陵中学校と章南中学校の体験学習の生徒さんたちにご協力いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

開催日時：平成20年6月22日(日) 13:00～16:00

講師：恐竜造形作家 荒木一成さん

参加人数：41名（小学3年生～中学生）

展示期間：平成20年6月24日(火)～7月13日(日)

展示場所：自然史博物館 自然史スクエア



芯材の準備をする教育普及ボランティア



荒木さんの解説に熱心に聞き入る参加者



骨をイメージしながら、芯材に粘土をつけていきます

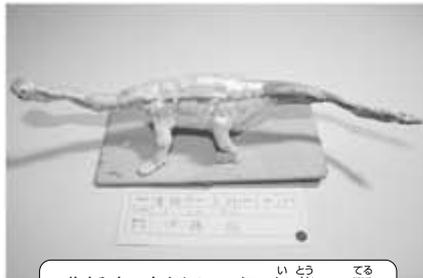


形がだいぶできてきました



参加者の作品を自然史スクエアに展示しました

ユアンモウサウルス復元模型-1



豊橋市 高師小 4年 伊藤 照



豊川市 御津南部小 4年 富永 真弘



豊橋市 汐田小 5年 杉浦 健斗



豊橋市 飯村小 4年 鳥山 拓也



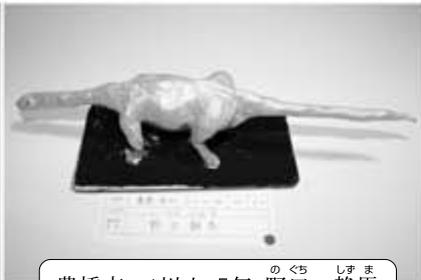
豊橋市 飯村小 4年 齋藤 浩輔



豊橋市 高根小 5年 仁枝 雅貴



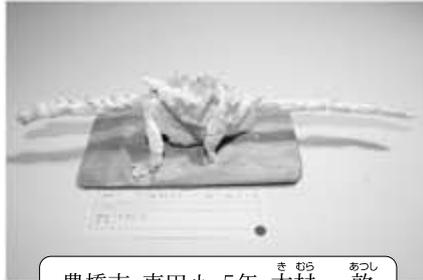
豊橋市 飯村小 5年 大原 一樹



豊橋市 二川小 5年 野口 静馬



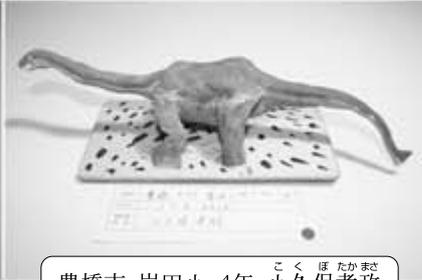
豊橋市 二川小 5年 野口 鮎子



豊橋市 東田小 5年 木村 敦



名古屋市 名東小 5年 北河 佑樹



豊橋市 岩田小 4年 小久保孝政



豊橋市 大清水小 4年 中野 智貴



豊橋市 大清水小 4年 山口 創大



豊橋市 新川小 4年 上松 史尚



豊橋市 向山小 5年 宮坂 大也



豊橋市 鷹丘小 6年 中村 祐太



豊橋市 二川南小 6年 大村 椋亮

ユアンモウサウルス復元模型-2



豊橋市 二川南小 5年 鳥居 智弥



豊橋市 二川小 5年 後藤 聖



豊橋市 二川中 1年 渡邊 大喜



豊橋市 向山小 6年 菅沼 寛明



豊橋市 二川南小 5年 中井 健斗



豊橋市 二川小 5年 鈴木 稜平



豊橋市 つつじが丘小 6年 朝倉 教介



豊橋市 つつじが丘小 6年 佐々木 瑞貴



豊橋市 つつじが丘小 4年 佐々木 優綺



豊橋市 新川小 6年 中島 快



豊橋市 向山小 3年 菅沼 真由



豊橋市 天伯小 6年 大羽 康平



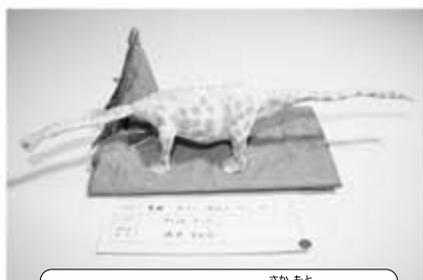
豊橋市 つつじが丘小 4年 重政 公太



豊橋市 多米小 4年 贄 光希



豊橋市 二川小 4年 佐藤 志穂



豊橋市 向山小 3年 坂本すみれ



豊橋市 向山小 3年 坂本さくら

※41名の参加者のうち、
35名の方が作品展示に
ご協力くださいました
※順不同・敬称略

(3) ブラキオサウルスの色募集と野外恐竜ランドの恐竜模型修繕

豊橋市自然史博物館の野外恐竜ランドの恐竜模型（口絵9、10）は昭和63年（1988年）度に3体、平成元年（1989年）度に7体が設置されて以来、来館者、特に子どもたちの好評を博しています。しかし、体表の退色をはじめ劣化が激しく、平成7年（1995年）度より継続的に修繕を行ってきました。平成11年（1999年）度からは、塗り替えのための体色の案を公募しています。今年度は開館20周年の節目でもあり、一番大きな「ブラキオサウルス親子」の修繕を行うこととなり、応募総数230点の色募集作品の中から最優秀賞に選ばれた森長夕雅さんの作品（口絵7）をもとに色の塗り替えを行いました（口絵8）。

ブラキオサウルスの色募集

応募方法：豊橋市自然史博物館備え付けの応募用紙のイラストに色を塗り、郵送または持参

募集期間：平成20年5月1日(木)～6月22日(日)

応募総数：230点（応募作品は自然史博物館にて展示）

選考方法：豊橋市自然史博物館職員により一次審査後、豊橋市自然史博物館研究委員会（植田小学校長 柴田 清委員長他、市内小中学校教諭6名）にて選考

表彰式：平成20年7月13日（日）13:00～13:15

開館20周年記念シンポジウム「復元－恐竜のすがたにせまる－」会場にて

修繕期間：平成20年7月8日（火）～7月18日（金）

<受賞作品>

◎最優秀賞：森長夕雅さん（豊橋市、小学4年生）

理由がよく考えられており、色の塗り方も丁寧であることから、決定されました。

○優秀賞：梶田由香さん（豊橋市、一般）

○優秀賞：後藤はんなさん（豊川市、小学3年生）

○特別賞：中村祐太さん（豊橋市、小学6年生）

○特別賞：飯田亮佑さん（豊橋市、一般）



色募集作品の展示(10月8日まで)



表彰式の様子

野外恐竜ランド修繕履歴

名称	設置年度	第1回修繕	第2回修繕
アスレ恐竜（滑り台）	昭和63年度	平成20年度	
トリケラトプス	昭和63年度	平成7年度	
イグアノドン	昭和63年度	平成8年度	
アンキロサウルス	昭和63年度	平成9年度	平成13年度
ブラキオサウルス親子	平成元年度	平成10年度	平成20年度
マイアサウラ	平成元年度	平成11年度	平成16年度
トウジャンゴサウルス	平成元年度	平成12年度	
メガロサウルス	平成元年度	平成14年度	
バキケファロサウルス	平成元年度	平成15年度	
デイノニクス	平成元年度	平成18年度	

「ブラキオサウルス親子」修繕の様子



着工前のブラキオサウルス親子



足場の組み立て



洗浄作業



クレーンにて首取り外し



首断面に色塗り採用者がサイン



首吊り上げ、取り付け



塗り替え及び樹脂コーティング



施工後のブラキオサウルス親子

Ⅲ. 20年のあゆみ

豊橋市自然史博物館は、昭和45年（1970年）に開園した豊橋子供自然公園（動物園）に隣接した場所で、昭和63年（1988年）5月1日に開館しました。開館時は教育委員会の学校教育課所管で、学芸員2人を含む職員9人が配属されました。その翌年、平成元年（1989年）4月24日に登録博物館となりました。

平成4年（1992年）には、動物園と自然史博物館が「豊橋総合動植物公園」として一体化されましたが、動植物公園は市長部局の都市計画部に、自然史博物館は教育委員会の所属となりました。入園するには大人500円（現在は600円）、小中学生100円の料金が必要ですが、博物館への入館は無料となりました。

博物館長は平成4年（1992年）度までは常勤でしたが、平成5年（1993年）度から平成12年（2000年）度までは教育長が兼務していました。さらに平成13年（2001年）度以降は非常勤の館長となり、平成16年（2004年）度までは糸魚川淳二名古屋大学名誉教授が、それ以降は現在に至るまで柴田 博名古屋大学名誉教授がその職にあります。

平成12年（2000年）度からは自然史博物館は、地下資源館を含めて教育委員会の1課となり、翌年には石巻自然科学資料館が附属施設に位置づけられました。平成20年（2008年）5月1日で、豊橋市自然史博物館は満20年になり、全国から900万人以上の方々を受け入れています（平成20年11月30日現在）。



開館当時の博物館



航空写真（開館当時）



中庭パティオ（開館当時）

自然史博物館のあゆみ

年度	開館 日数	入館者数		特記事項	特別企画展等
		単年度	累計		
63	284	219,227	219,227	・開館(5/1)延べ床面積3,587㎡ ・糸魚川淳二名古屋大学教授が顧問に就任	①郷土の昆虫大集合 8/2～16(13日間)13,791人
元	310	155,814	375,041	・豊橋市自然史博物館が登録博物館となる(4/24) ・自然史博物館友の会募集開始(6/15) ・野外恐竜ランド・実物大恐竜模型7体設置(3/20)	・恐竜頭骨展示 5/3～31(25日間)25,006人 ②J.H.ファープル展 6/10～7/25(39日間)25,918人 ・恐竜と化石 10/21～12/10(44日間)16,914人
2	309	187,337	562,378	・化石研究会(11/10～11) ・「ふれて楽しむ化石壁」設置(1/2) ・豊橋市自然史博物館研究報告第1号発行(3/15)	③ヒトのきた道 5/3～6/3(28日間)40,794人 ④貝類の世界―高桑コレクション― 7/20～8/31(37日間)25,933人
3	310	184,966	747,344	・特別企画展示室・郷土の自然展示室等増築(3～4年度) 面積2,875㎡(増築後の延べ床面積6,462㎡) ・「自然史へのいざない―教師用展示解説書」発行(5/10)	⑤よみがえる古生代の生きものたち 7/19～9/1(37日間)30,188人
4	309	472,221	1,219,565	・総合動植物公園オープン(4/29) ・入館料が入園料(大人500円、小中学生100円)に含まれる ・展示解説No.1発行(7/15)・入館者100万人達成(9/20) ・カワニナ研究会(11/7)・大型映像オープン(12/19) ・豊橋市自然史博物館資料集第1号発行(3/30)	⑥日本のチョウ―地域の違いを追う― 7/17～8/30(39日間)80,005人 ・中国蝴蝶展(10/17～11/3)
5	310	511,477	1,731,042	・開館5周年記念 シンポジウム「恐竜の謎にせまる」(7/4) シンポジウム「飛び出せ恐竜たち」(7/25) ・友の会(デンバー自然史博物館交流の旅)(8/22～28)	⑦開館5周年記念特別企画展 今よみがえる恐竜の世界 7/16～9/19(57日間)53,184人 特別企画展有料化
6	312	502,814	2,233,856	・入館者200万人達成(9/24) ・日本貝類学会(1/28～29) ・郷土の自然展示室展示改装オープン(3/25)	⑧地球たんけん―地球・日本列島の生い立ちをさぐる― 7/15～9/8(58日間)25,579人
7	312	549,376	2,783,232	・財日本生命財団「豊橋市自然史博物館総合案内」助成	⑨魅惑の甲虫クワガタムシ 7/14～9/17(58日間)44,980人
8	310	626,070	3,409,302	・植物園オープン(4/27)、現在の基本形が完成 動植物公園入園料改定(大人600円、小中学生100円) ・大型映像館名称を「ダイナビジョンシアター」とする ・入館者300万人達成(6/16) ・市制施行90周年記念特別企画展プレシンポジウム「大進化」(6/23)	・松花江マンモス新庁舎展示(6/10～7/5) ⑩市制施行90周年記念特別企画展 生命史20億年―ヒトのルーツをさぐる― 7/19～9/8(45日間)23,482人 ⑪市制施行90周年記念特別企画展 ロシアのマンモス10/1～1/5(81日間)35,238人 ・マンモススケッチ展(12/7～1/15)
9	311	500,229	3,909,531	・日本古生物学会(6/28～29) 記念講演会「ロシア発古生物学最前線」(6/28)	⑫貝―美しい形と模様― 7/17～9/15(53日間)13,691人 ・ホネガイ、クマサカガイの模型展示(8/12～3/30) ・大型映像「ロストアニマルズⅠ」 (4/1～6/22,10/1～3/31)50,115人(最高観覧者数)
10	310	468,537	4,378,068	・入館者400万人達成(5/9) ・名古屋貝類談話会(6/14) ・オリエンテーションホールの改装(8/24～9/15) ・JICA研修生(Elina Sufiati)受入(2/10～4/21)	開館10周年記念特別企画展 ・みせます博物館活動 4/25～5/24(26日間)95,159人 ⑬地底たんけん―大地と地震のみみつをさぐる― 7/17～9/15(52日間)21,606人 ・バイカル湖と摩周湖の神秘にせまる 10/3～12/13(62日間)106,662人
11	311	475,835	4,853,903	・いきいきバスポート開始(5/8) ・全日本博物館学会(6/12～13) ・日本鞘翅学会(11/13～14)	⑭雑木林の王者カブトムシ―その進化と系統― 7/2～9/5(57日間)40,138人
12	312	439,108	5,293,011	・自然史博物館が教育委員会の一つの課となる ・化石研究会(5/20～21)・入館者500万人達成(5/28) ・高師小僧剥ぎ取り標本設置(12/21)	⑮おもしろ化石大百科 7/14～9/17(58日間)15,480人
13	312	478,283	5,771,294	・石巻自然科学資料館が当館の附属施設となる ・専任館長の着任 ・第四次基本構想・基本計画はじまる ・豊橋市自然史博物館ガイドブック①発行(3/29)	⑯クワガタムシはなぜ黒い?動物たちの色ものがたり 7/13～9/16(58日間)22,693人
14	311	402,209	6,173,503	・NASA学芸員ロフグレン来館(7/16) ・入館者600万人達成(9/8) ・石巻自然科学資料館リニューアルオープン(12/14) ・日本貝類学会(2/1～2) ・古生代展示室等増築273㎡(増築後の延べ床面積6,735㎡)	⑰マグマのぼうけん―月の石と大地のみみつをさぐる― 7/18～9/16(54日間)13,305人
15	313	408,452	6,581,955	・古生代展示室展示物製作(～16年度) ・ハットン国際会議普及講演会「大陸の起源と進化」(9/6)	・小柴昌俊ノーベル賞展 6/28～9/28(81日間)93,146人 ⑱アゲハチョウ―遺伝の秘密ABC― 7/11～9/15(59日間)11,797人
16	310	445,205	7,027,160	・古生代展示室リニューアルオープン(4/29) ・日本蜘蛛学会(8/27～29)・入館者700万人達成(3/13)	⑲恐竜後の世界―よみがえる新生代の生きものたち―7/16～9/12(51日間)14,109人

17	312	418,567	7,445,727	<ul style="list-style-type: none"> ・こども環境サミット(秋篠宮殿下、妃殿下、内親王殿下御来館7/28) ・どこでもミュージアム・エコin豊橋(9/17~18) ・自然史博物館自由研究展の開催開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・5300年前から来た男「アイスマン展」4/19~5/8(19日間)90,685人 ②よみがえれ!愛知のいきものたち7/15~9/11(52日間)8,588人
18	312	648,630	8,094,357	<ul style="list-style-type: none"> ・こども恐竜シンポ「董枝明先生と恐竜トーク」(7/15) ・高円宮妃殿下御来館(9/7)・リトアニア大使来館(10/16) ・市制施行100周年記念事業「とよはし高師小僧フェスタ」(10/28~11/19)33,110人 ・入館者800万人達成(11/5) ・国際ソロブチミスト豊橋「生きている化石植物」解説板寄贈(11/18) ・ベネズエラ国立自然科学博物館長記念講演(1/24) ・中生代展示室等増築249㎡(増築後の延床面積6,984㎡) 	<ul style="list-style-type: none"> ・市制施行100周年記念事業 ユカギルマンモスミュージアム 4/8~6/18(63日間)217,690人 ②市制施行100周年記念特別企画展 恐竜と生命の大進化ー中国雲南5億年の旅ー 7/14~10/9(77日間)45,861人
19	312	488,832	8,633,220	<ul style="list-style-type: none"> ・中生代展示室展示物製作(~20年度) ・日本貝類学会大会(4/21~22) ・郷土の自然展示室Q&A更新(11/29) 	②ホネホネ大行進ー骨学のススー 7/13~9/9(52日間)16,551人
20	311	405,147	9,038,367	<ul style="list-style-type: none"> ・中生代展示室リニューアルオープン(4/26) ・植物地理・分類学会(5/24)、全国大学博物館学講座協議会 全国大会(6/20)、日本展示学会(6/21)、日本土壌学会(9/12)、全国科学館連携協議会(10/31) ・開館20周年記念シンポジウム「復元ー恐竜のすがたにせまるー」(7/13) ・入館者900万人達成(11/1) 	③シーラカンスーブラジルの化石と大陸移動の証人たちー 9/19~11/16(51日間)21,709人

H20.11.30現在



開館式典(1988年)



開館5周年記念シンポジウム「恐竜の謎にせまる」(1993年)



郷土の自然展示室リニューアルオープン式典(1995年)



石巻自然科学資料館リニューアルオープン(2002年)



古生代展示室リニューアルオープン(2004年)



市制施行100周年記念特別企画展「恐竜と生命の大進化」(2006年)

◆協力者（順不同・敬称略）

シンポジウムおよび関連イベント開催にあたりまして、下記の皆様、機関よりご協力いただきました。記してお礼申し上げます。

団 体

豊橋市図工・美術研究部
豊橋市立大清水小学校
豊橋市立大清水小学校PTA
豊橋市立杉山小学校
豊橋市立杉山小学校PTA
豊橋市立二川南小学校
豊橋市自然史博物館研究委員会
豊橋市自然史博物館ボランティア

個 人

三宅泰明（豊橋市立大清水小学校長）
大岩宗司（豊橋市立杉山小学校長）
高畑喜一（豊橋市立杉山小学校PTA会長）
田中千晶（豊橋市立二川南小学校教諭）
東 洋一（福井県立恐竜博物館副館長）
小田 隆（画家・イラストレーター）
荒木一成（恐竜造形作家）

豊橋市自然史博物館開館20周年記念シンポジウム
「復元-恐竜のすがたにせまる-」報告書

発 行 2008年12月26日

編 集 豊橋市自然史博物館（吉川博章、加藤千茶子）

発行者 豊橋市自然史博物館

〒441-3147 豊橋市大岩町字大穴1-238
Tel. 0532-41-4747
Fax. 0532-41-8020
<http://www.toyohaku.gr.jp/sizensi/>

印刷所 有限会社 金子印刷

〒440-0823 豊橋市南瓦町88番地
Tel. 0532-54-8960代
Fax. 0532-53-4558

Report of the 20th Anniversary Symposium, Toyohashi Museum of Natural History
“Restoration of Dinosaurs”

©2008 by Toyohashi Museum of Natural History

表 紙：エドモントサウルス展示室，復元画©小田 隆

裏表紙：トリケラトプスの復元模型©荒木一成

